

平成 29 年度 第 1 回新潟市環境審議会

議 事 概 要

- 1 日 時 平成 30 年 1 月 31 日 (水) 午前 10 時から
- 2 会 場 市役所分館 1 階 103 会議室
- 3 出席者 別紙名簿参照
- 4 事務局 長浜環境部長, 加藤環境政策課長, 中島環境対策課長 ほか

|  |   |
|--|---|
| <p>&lt;配布資料&gt;</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 次第</li> <li>○ 座席表／出席者名簿</li> <li>&lt;報告関連資料&gt;</li> <li>○ 資料 1 : 新潟市の環境の状況について</li> <li>○ 新潟市の環境 (平成 29 年版)</li> </ul>  |
| <p>&lt;開会&gt;<br/>平原 補 佐<br/><br/>長 浜 部 長<br/><br/>平 原 補 佐</p> | <p>ただいまから, 平成 29 年度第 1 回新潟市環境審議会を開催いたします。</p> <p>【挨拶】</p> <p>【資料確認】</p>   |
| <p>&lt;報告事項&gt;</p> <p>波多野委員</p> <p>渡辺係長</p>                   | <p>新潟市の環境の状況について</p> <p>【資料 1 説明】 新潟市環境基本計画の柱に沿った順に各担当係長より説明<br/>環境教育と協働の推進…環境政策課環境企画係 小林係長<br/>低炭素社会の創造…環境政策課スマートエネルギー推進室 高澤係長<br/>循環型社会の創造…廃棄物政策課企画係 渡辺係長<br/>生物多様性の保全…環境政策課自然保護係 工藤係長<br/>快適な生活環境の創造…環境対策課大気係 齋藤係長<br/>水質係 岡村係長<br/>騒音係 石川係長</p> <p>資料 1 スライド 8 ページ, 家庭系ごみ排出量の推移について。嬉しいことにごみが減った。平成 28 年度が 488 グラムで, 平成 29 年度の試算では 28 年度並みとのこと。市民がすごく頑張ったのではないか。新潟市もダンボールコンポストなど, いろいろな施策がある中で, 市の財政難によりさまざま制度が削減されると聞いている。せっかく効果が出てきたところであるが, なくなる取り組みがあるのか。</p> <p>また, ごみの量は減れば減るほどいいと思うが, どこまで市民の努力を促したらいいのか。その辺りの考えをお聞きしたい。</p> <p>一人一日当たりのごみ量が大きく減量できたことは, ごみ分別を徹底していただいている皆さまの努力のおかげと感謝している。来年度に向け, 現在予算編成している段階で, まだ確定ではないが, 一部の事業については休止や縮小するものもある。その中で残る事業について, ごみの減量, 資源化に向けての取り組みをしっかりとしていきたい。</p> <p>続いて, 市民への啓発について。ごみ量の減量・資源化にゴールはないが, 市民にど</p> |

|      |  |
|------|--|
|      | <p>これまで頑張っていたかについては難しいところ。直接関連するものではないが、来年度、しばらく休止していたごみの組成調査を実施したい。予算化されれば、燃やすごみの中に生ごみがどれだけ入っているのか、資源化できる紙類がごみとしてどれだけ出されているのかを把握できる。これらの数字を市民にお知らせし、今後取組む分別やリサイクルの方向性を示し取組むことで、さらにごみの減量ができるのではないかという提案を、次の計画の中に盛り込めるようにしていきたいと思う。</p> |
| 千葉委員 | <p>追加で質問したい。家庭のごみの廃棄量の変化が平成19年度から平成28年度まで示されている。この間に新潟市の世帯数は変化していると思うが、その点について関連性や追加の説明はあるか。</p>   |
| 渡辺係長 | <p>手元に具体的な数字を持ち合わせていないが、確かに新潟市も人口が減少している。その中でごみ量が世帯数と連動するかについては、一人世帯も増えているため、必ずしも同じ方向とは限らないが、人口面で言えば平成19年から10年間で減少している。将来的にも減少していくことが考えられているので、次の計画では人口減少を見据えた形でのごみ減量施策を考えていかなければならない。</p>   |
| 轡田委員 | <p>関連して、9ページの事業系ごみの推移について。平成26年から27年にかけて許可ごみと公共ごみの量がかなり減っている。この理由をお聞きしたい。</p>  |
| 渡辺係長 | <p>平成25年度に事業系ごみのガイドラインを新しく策定し、ごみの分別・リサイクルの推進を事業者にも周知するものを作成した。このガイドラインは平成25年度に作成し、26年度に運用開始、27年度に本格実施をした。このため、平成27年度にかけて、ごみ量が大きく減少したと考えている。</p>  |
| 轡田委員 | <p>ガイドラインが配布されたことにより、企業が努力をして減らしたということか。</p>   |
| 渡辺係長 | <p>事業者から、ごみの分別やリサイクルの徹底について協力いただいたほか、これを運用するにあたり、ガイドラインに基づき、事業所への市の訪問指導や、市の施設に持ち込んではならないごみの検査など、周知をはかった。</p>   |
| 轡田委員 | <p>スライド10ページ、平成29年度主な取組みについて。⑥の焼却施設のあり方検討調査について、集約に向かっているなど、方向性が決まっていれば教えてほしい。また調査の結果についてはいつごろ出るのかお聞きしたい。</p>  |
| 渡辺係長 | <p>現在、新潟市内の焼却施設は4施設あるが、それぞれの施設が老朽化等さまざまな課題を抱えている。今後、人口減少によるごみの減量のほか、うまく施策が展開することによるごみの減量を想定し、その4施設が必要か、どの位置にどのような規模の施設を配置するのが適切かといった方向性を調査する委託を実施している。3月末までの期間で外部委託している。その結果をもとに、焼却施設のあり方を庁内で検討していく。</p>                               |
| 藤堂委員 | <p>スライド3ページ、新潟市域の温室効果ガス排出量の推移について。運輸部門が2012年から2014年までで微増している。新潟市はもともと自動車交通への依存度が高いという中で、新潟市はエコモビ推進運動や新交通システムの普及などさまざまな取り組みをしているにもかかわらず、微増が続いている要因として、どのような数量的背景があるか。具体的には自動車交通のシェア、年に一回実施されるパーソントリップ調査の結</p>                           |

|         |   |
|---------|---|
|         | <p>果なども踏まえてお聞きしたい。</p> <p>次にスライド 23 ページ、公共用水域の水質 BOD/COD 適合状況（その 2）について。海域の水質について環境基準が未達成の原因がよく分からないという説明に聞き取れたが、河川の水質で環境基準を達成している、海域では未達成であるというのは、堆積物などが海流の関係で累積しているのではと思うが、よく分からないということで放置していいのか。専門家に聞けば分かるかもしれない。また、COD・BOD で具体的な化合物の組成を調べたり、種類や形状を調べたりすれば、どこから来たものかなどが分かるのではないかと考える。この点についてどう考えるか。</p> <p>最後に、スライド 10 ページ、平成 29 年度主な取組みの「ごみの組成調査」について。ごみ量は水分含有量が大きく影響するのではないかと考える。ごみの組成調査を実施する際に、過去の組成調査の結果を踏まえれば、一般ごみ、事業系ごみを含めて、総トン数の変動に関する推測が正確にできるのではないかと考えるので、ぜひお願いしたい。</p> |
| 小林 係 長  | <p>はじめに、温室効果ガスの運輸部門の微増について。パーソントリップ調査に関しては手元に資料がないため細かい数字をお示しできないが、一番最近の調査では、自動車分担率が以前の調査に比べて上がっているという結果がある。この結果は今回の調査と年度が違うため、昨年度の運輸部門が増えたこととの相関性は分からないが、自動車の保有台数の推移と比べると、乗用車両の台数がずっと右肩上がりになっており、2014 年度に最高の値を示している。このことから、乗用自動車の保有台数も関係するのではないかと考えている。</p>  |
| 岡 村 係 長 | <p>2 点目の東港付近の増加の原因について。“現在分からない”というものであり、調査は続けている。河川と海域で同じような測定を行っている。クロロフィル A の流入を調べ、量の変化を調査している。また、海の深さ別で COD を分析しており、それらを見ながら調査している。実際は、さまざまな要因が重なっていると思うので、一概に特定できないが、海流の関係なども踏まえて調査していきたい。</p>   |
| 藤 堂 委 員 | <p>長期にわたって基準値超過が続くようなら、専門家に意見を仰ぐなど、もう少し本格的な調査をされた方がいいのではないかと思います。</p>   |
| 岡 村 係 長 | <p>参考にさせていただく。</p>  |
| 渡 辺 係 長 | <p>最後のごみの組成調査について。限られた予算の中で、これからの施策に反映できるような、より良い内容になるよう実施していきたいと考えている。</p>   |
| 志 賀 委 員 | <p>スライド 11 ページから 13 ページ、生物多様性の保全について。生物多様性の保全の指標としてはハクチョウの越冬数、特定外来生物の種類、環境保全型農業を実施する農地の割合となっている。ハクチョウの飛来数はそのうちのひとつで、資料から、かなり増えてきているという理解でいいと思うが、これに対する分析をしているか。なぜ増えていると考えるか。新潟市の自然環境が豊かになったのか。相対的に他が悪くなっているから新潟市に飛来するのか、新潟市が何か特別な取り組みをしたから増えているのか。生物多様性のバロメーターとしてハクチョウがあるので、正しく理解しないと、生物多様性がすごく向上していると勘違いされるのではないかと考える。</p> <p>次に、資料の中で、生物多様性に関しては数値目標が出ていない。生物多様性の保全の指標の一つである、環境保全型農業を実施する農地の割合も出ていない。冊子「新潟市の環境」の 69 ページには、計画策定時（平成 25 年度）の 34.4%から平成 28 年度実</p>                   |

績では 35.91%に上がっており、平成 34 年度の目標は 50%を目指すこととなっているが、これに関して本日の説明の中になかったが、現状どのようになっているかお聞かせいただきたい。

工藤係長

市の鳥ハクチョウの飛来数について。コハクチョウの飛来数については、平成 29 年が数値上で伸びているが、全国的な飛来数はほぼ変わっていない。毎年調査を実施する 1 月中旬は、新潟市は雪が降ったり降らなかったりする。コハクチョウは雪が降り真っ白になると餌が取れないため、もう少し南下するといった動き方をする。調査は、この日と決めて実施するため、たまたま今年はこのような結果になった。長い目でみると、飛来数はあまり変化していないと考える。新潟市には、毎年 1 万羽以上の飛来がある。一番飛来数が多いのは 11 月ころだと思われるが、平成 29 年の 1 月中旬は、たまたまそれほど雪がなかったため、新潟市にとどまっていたハクチョウが多かったのではないかと考えている。平成 29 年の調査日には全国の 30%ほどが新潟市にいたということになるが、例年 1 万羽以上が飛来している秋冬の期間を見ても、全国の 3 割くらいのハクチョウが新潟市に来ていると考えている。

次に生物多様性の保全の指標について。環境保全型農業の農地の割合については、平成 34 年の目標として 50%としているが、現状について本日は農業部門からのデータを持ち合わせていない。これについては後ほど委員の皆さまにご報告させていただく。

志賀委員

確認だが、分析としてハクチョウの飛来数は、およそ例年通りではないかという認識でよいか。もしも、この数値を外に出す場合には、注釈をつける必要まではないと思うが、誤解がないようにする必要があるのではないか。

次に農地のことに関しては、重要な数値として指標に掲げたのだと思うので、取りまとめをお願いしたい。

続いて、生物多様性の評価に関して。昨年度の審議会の際にも発言したが、レッドデータ（絶滅危惧種）の種類がどれくらい、どのように変わっているのかについて、本来は指標として評価するべきと考える。予算面の事情があることも理解しているつもりであるが、レッドデータブックを発刊するには、調査を始めてから 7~8 年かかる。調査に数年かかってから発刊するというかたち。昨年も話したとおり、現在 2010 年発刊のレッドデータブックがあるが、2003 年のデータに基づいて出されたものである。すでに 15 年も前のデータをもとに、現在新潟市の施策を検討していることになる。今後のことを考えると、調査の必要性を検討すべきではないか。すぐに事業として実施することは難しいと思うが、今調査したとしても、発刊するのは 10 年先になるかもしれない。多くの専門家の方々もいらっしゃるが、世代交代の問題は深刻な問題。人材育成も掲げているので、それらも考えて進めていただきたい。

千葉委員

生物多様性について追加で発言する。ハクチョウを生物多様性のシンボルとすること自体は一般の市民にとって自然に受け入れられるという意味で良いと思うが、ハクチョウがたくさん来ればよいという考えになると、誤った方向に進むので、その点について十分に注意して進めなければならないと考える。

また、生物多様性の根幹をなす部分では、さまざま生物の絶滅が進んでいる中で、絶滅しないようにする、希少性の生物について把握するということが、志賀委員が言われたように大事なこと。大変なことだが、この部分が本質になるので、この点についても、できるだけ方向性をはっきり出していただければと思う。

ハクチョウの数については、日本全国で監視・モニタリングをしているので、日本全体で数がどうなっているのかを踏まえたうえで、新潟市のハクチョウの数を調査してい

かなければならないと思う。その中で、ハクチョウにはオオハクチョウとコハクチョウがいるが、オオハクチョウについては、もともと数は少ないが、数は横ばいで変化していない。それに対し、ツンドラのコハクチョウは急速に増えている。理由について研究者の中で討論されており、一つは地球温暖化が進み、繁殖地での繁殖率が高くなってきているのではないかというもの。もう一つは、農業の形態が変化し、昔は稲刈りだったものが、機械化が進んできたため、ハクチョウの餌が非常に多くなり、厳冬期でも、温暖化による暖冬とあわせて、新潟平野で餌を採れる状況があるのではないかと考えられている。それらにフォーカスをあわせ、そのようなデータを出してもらえるよう、市からお願いをしてはいかがか。

次に、12 ページの外来種対策関連事業について。この資料の中に鳥は記載されていないが、追加情報としてお伝えする。恐らく外来種である、中国原産のガビチョウという鳥がいるが、数年前に新潟市に入ってきているとの報告が出ている。後日レポートを出したい。また新潟市ではないが、ソウシチョウという鳥が上越に入ってきている。まだ警戒化はしていないが、新潟県でもそれら外来の鳥が少しずつ入っていることについて、警戒していかなければならない。

最後に質問であるが、13 ページの鳥獣保護管理事業について。クマ・サル・イノシシの目撃等件数を掲載しているが、新潟市のおよそどのあたりで目撃されているのか。

工藤係長

主に秋葉区で出没が多い。新潟市内においては、ツキノワグマ・イノシシ・ニホンザルの生息地として確認されているものではないが、迷った個体や、縄張り争いで追い出された個体が、しばしば新潟市内に入ってくる。またイノシシについては、新潟県内では上越、柏崎の方で多く見られていたものが北上してきて、最近では大河津分水を越える個体も出てきたと聞く。それにより、弥彦村や西蒲区の方にも入ってくるイノシシがいる。全国的には、イノシシについては西日本にいたものが北へ上がってきているという傾向があるし、クマについては里山の環境変化で出てきているという傾向がある。

生野委員

スライド 15 ページ、大気常時監視測定結果について。光化学オキシダントの短期的評価が全部×になっている。この原因についてお聞きしたい。個人的な考えだが、冊子「新潟市の環境」の 77 ページに大気汚染防止法に基づくばい煙発生施設等の届出状況が掲載されており、VOC 排出施設の項目に事業場数 4 とある。大防法（大気汚染防止法）でいう VOC 排出施設として大きな事業所、排出施設が定義されているが、中小事業所はここに入っていない。新潟市の場合それほど大きな事業所は少なく、小さい事業所は結構あると思う。光化学オキシダントの原因は塩素やフッ素の化合物などたくさんあり、大防法からは外れるが、小さな事業所について、何らかの対策を考える必要があるのではないか。

齋藤係長

光化学オキシダントの原因物質についてはさまざまなものがあり、国内においても排出源がいろいろある。VOC の排出施設は新潟市内においても印刷業者等が大きな排出原と考えられる。スモッグについても VOC を排出しているところ、小さい事業所では、例えばガソリンスタンドが給油のときに排出するなど、細かなものはあるが、新潟市もホームページや広報誌等を通じ、排出について一般の方にも考慮してもらおう旨周知していると考えている。

波多野委員

冊子「新潟市の環境」の 66 ページ、67 ページについて。66 ページ（3）イ「地域一斉清掃やボランティア清掃の定期的な実施及び市民参加の促進」の項目に、「クリーン作戦を展開します」とある。また、67 ページのウ「自治会等による自主的な美化活動

の促進」の指標項目の一つに、環境美化活動があり、「一斉清掃」「側溝清掃」という記載がある。私の町内では急速に高齢化が進んでいる。これまでは、できない方の分もできる人がやってあげるといふ、非常に助け合い精神の旺盛な町内だったのが、ここ最近ではいがみ合いになってきている。助ける方も高齢化してきて、非常に危険な状況である。自分の背丈ほどの、大変深い集中升もあり、そこに誰が入るのかというのが大きな問題になっており、班長にお願いしたり町内会長にお願いしたりしていた。ほかの地区の町内会長に話を聞くと、町内会長の裁量で年に2回にするとところや、自分の家の前だけを責任をもってやってもらうところ、違う方法で実施するところなど、いろいろ工夫をしている町内がある。私の町内会は長年助け合いをしているところなので、「あの家はいつも出られない」など、逆にケンカの種になり、実際に町内でケンカになったこともあった。「一斉」が難しくなってきた中で、指標の中に「一斉清掃」と記載されてしまうと、その中で動かなければならなくなる。「一斉」にできない町内がある現状について、どう考えるか。

渡辺係長

地域の清掃については、廃棄物対策課が市役所側の担当課で、各区区民生活課が担当している。「一斉」ということについては、地域団体の方からの、このような内容で実施したいという申請を受け、それに伴う用具等を配付するという支援をしているものであり、必ずしも町内の方すべて参加しなければ支援が受けられないものではないと思うので、実施方法等については区役所区民生活課に個別にご相談いただきたい。また、集中升など危険な場所の清掃については、区役所の建設課がもしかすると相談窓口になり、回収等の相談を受けていると思うので、まずは区役所の区民生活課で相談いただくことで、必要があれば地域課や建設課などご案内できると思う。

原田委員

スライド8・9ページ、家庭ごみと事業系ごみについて。データの中に産業廃棄物が入っていないようだ。産業廃棄物についても、どのように変化したのか年度ごとに示していただいた方が全体を見るという意味で有益なのではないか。関連して、ごみの最終処分、埋め立て処理されてしまう量がどう推移しているのかも関心事だと思うので、これについてもデータをまとめるとよいのではないかと。意見のみ。

次に12ページ外来種対策関連事業について。特定外来種アレチウリが平成23年度に確認されたということで、その後面的な調査はしているのか。侵入の由来や佐潟周辺以外の場所にあるという可能性についてはどうか。

工藤係長

佐潟はラムサール条約湿地ということで、アレチウリについて特に重点的に見ている。そのほか里潟といわれる鳥屋野潟や福島潟の自然環境豊かなところでの状況としては、鳥屋野潟にもアレチウリが確認されている。面的な調査というよりも里潟を中心に見ている。新潟県近辺でみると、長野県にアレチウリが多く繁茂している。新潟市では、信濃川を伝って種子が流れてくることで、佐潟周辺でいうと、西川の上流でアレチウリがかなり確認されているという情報もある。こうしたアレチウリ等を放置すると、ほかの在来の植物を駆逐してしまうので、みんなで抜本作業をするといった市民活動まで持っていければ一番いいが、現状はそこまで至っていない。アレチウリの問題があるということとは把握している。

藤堂委員

回答は不要。スライド23ページ、公共用水域の水質について。先ほど河川で基準値を超えないものが、海域で超えてしまうことについて気になるという発言をしたが、スライド24ページの放射線の測定に関しても、河川底質の調査で、4河川で検出されている。同様に、一般の汚染物質で河川に検出されないものが海域で検出されるというこ

|       |   |
|-------|---|
| 千葉委員  | <p>とは、海域の底質が気になるということが推測される。水質および放射線測定の将来のことを考えた際に、それらがどうなのかというのが気になる点である。可能であれば、その点についても調べていただけるとありがたい。</p> <p>以上で終了とする。</p> |
| <その他> | <p>次第3「その他」はなし</p> <p><b>【議事終了】</b></p>   |